



ニプロストローチョッパー

MEC SERIES

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。



この製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ずこの取扱説明書をお読みください。

- 間違えた使い方をすると事故を引き起こすおそれがあります。
- お読みになった後は、必ず製品の近くに保管してください。

松山株式会社

ニプロ製品をお買い上げいただきまして 誠にありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は ストローチョッパー の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書をよく読み十分理解されてから、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用してください。
- お読みになった後は、必ず製品の近くに保管し、必要になったとき読めるようにしてください。
- 製品を他人に貸したり、譲り渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失、また損傷した場合は、すみやかに弊社、またはお買い上げいただきました販売店・農協へ注文してください。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合は、本書の内容、および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきました販売店・農協へご相談ください。
- △印付きの下記マークは、安全上、特に重要な事項です。必ず守って作業をしてください。

△ 危険 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

△ 警告 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

△ 注意 その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

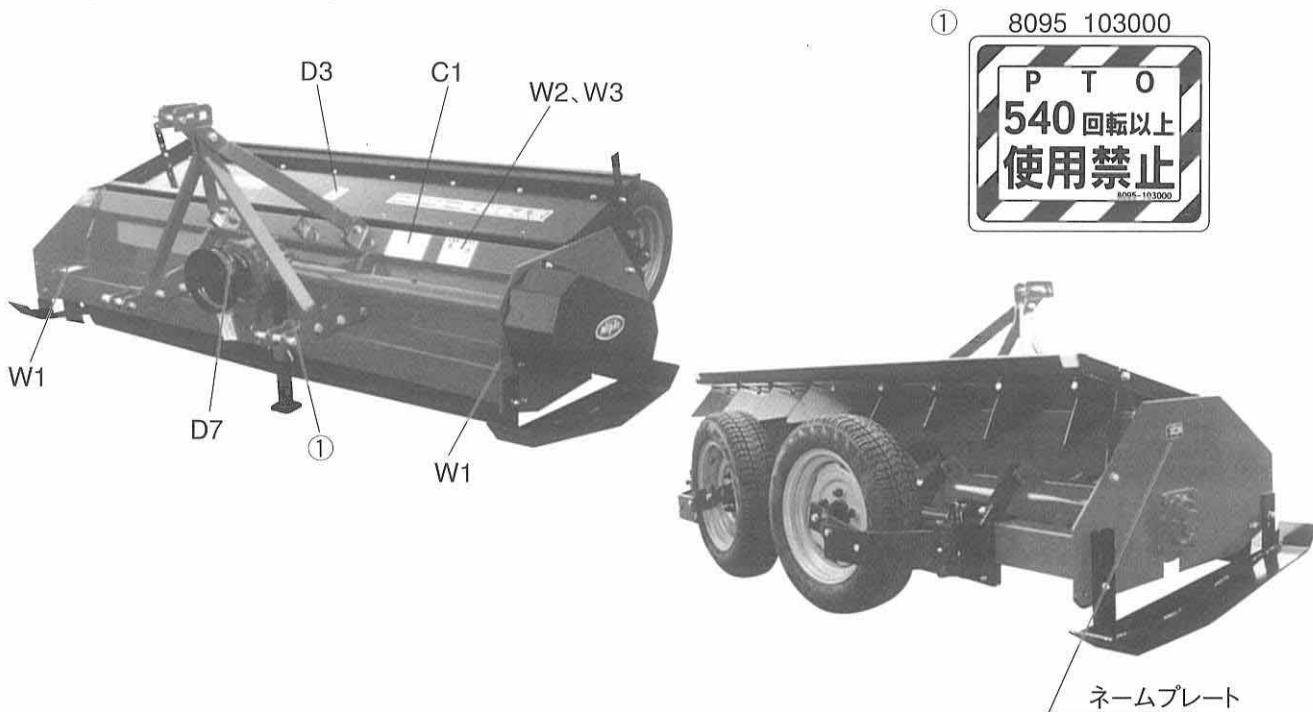
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載しております。ご使用前に必ず読んでください。

もくじ

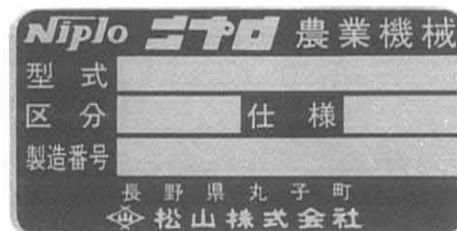
警告ラベルの種類と位置	1
安全に作業をするために	2
本製品の使用目的について	6
保証書について	6
補修部品の供給年限について	6
アフターサービスについて	6
主要諸元	7
各部のなまえと組立	8
トラクター装着の規格	9
3点リンクの調整	9
装着順序	10
持ち上げ時の注意	11
ジョイントの取付け	11
①長さの確認	11
②長さの調整	12
③取付方法	12
トラクターとの調整	13
①振れ止め調節	13
②前後角度調節	13
③水平の調整	14
④ストローチョッパーの「最上げ」位置の調節	14
ほ場への出入りのしかた	14
作業のときの注意	15
作業の方法	16
①作業速度	16
②P T O回転速度	16
③刈り高さの調節	16
④後方への草のはきだし調節	17
点検・整備・保守管理	18
①ボルト・ナットのゆるみ点検	18
②ジョイントの給油	18
③オイルの量と交換	18
④ベルトの調整	19
⑤刃の点検と交換	20
格 納	21

警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルは図の位置に貼ってあります。よくお読みになって安全に作業をしてください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし常に見えるようにしておいてください。
- 紛失、または破損された場合は、お買い上げいただいた販売店、または農協へ下記型式、およびコードナンバーでご注文お願ひいたします。



C1 8750-318000



D7 8750-344000



D3 8750-315000



W1 8750-316000



W2 8750-317000



W3 8750-326000



安全に作業をするために

ここに記載している注意事項を守らないと、死亡・傷害事故や、機械の破損につながります。よく読んで安全作業をしてください。

一般的な注意事項

△ 警告 こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18歳未満の人

△ 警告 作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。
ヘルメット・すべり止めのついた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
【守らないと】機械に巻き込まれたり、すべてて転倒するおそれがあります。

△ 警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

△ 警告 機械を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

機械と一緒に「取扱説明書」を渡し、必ず読むように指導してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

△ 警告 トラクターに作業機を装着するときは、必ずトラクターの取扱説明書を読む

トラクターに作業機を装着する前に、必ずトラクターの取扱説明書を読み、よく理解してから作業機の装着をしてください。
【守らないと】傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。

△ 警告 重量バランスの調整をする

トラクターに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、トラクターメーカー純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。
【守らないと】傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。

△ 注意 公道の走行は作業機装着禁止

トラクターに作業機を装着して公道を走行しないでください。

必ず、作業機を取り外して走行してください。

【守らないと】道路運送車両法違反です。

事故を引き起こすおそれがあります。

△ 注意 機械の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象にはなりません。

純正部品や指定部品以外は取付けないでください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

点検・整備の注意事項

△ 注意 点検・整備をする

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

△ 注意 点検整備中はエンジンを停止する

点検・整備・修理、または清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

△ 警告 点検整備は平らで固い場所でおこなう

交通の邪魔にならず、安全で機械が倒れたり動いたりしない、平らで固い場所で点検整備をしてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

△ 注意 カバー類は必ず取り付ける

装着のときや、点検・整備で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

△ 注意 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

作業時の注意事項

△ 警告 作業機の着脱は平らな場所でおこなう

作業機の着脱は、平らで固い場所でおこなってください。

【守らないと】下敷きになったり、ケガをしたりします。

△ 警告 トラクターと作業機のまわりに人を近づけない

トラクターのまわりや作業機との間に人を入れないでください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

△ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。

△ 警告 機械に巻き付いた草やワラを取るときはエンジンを停止する

回転部分に草やワラが巻き付いたときは、必ずエンジンを停止させ、回転部分が止まってから、巻き付きを外してください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。

△ 注意 作業機の調整はエンジンを停止しておこなう

作業機の調整をするときは、作業機を下げ、トラクターの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にしエンジンを停止してからおこなってください。

【守らないと】傷害事故や機械の損傷をまねくおそれがあります。

△ 警告 斜傾地では、ゆっくり大きくまわる

斜傾地での高速・急旋回は、転倒のおそれがあり大変危険です。

トラクターの速度を落とし、大きく回ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故を負うおそれがあります。

△ 警告 作業機の落下防止をする

作業機の落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に「閉め」でロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故を負うおそれがあります。

△ 警告 アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

長さのめやすは荷台の高さの3倍です。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

△ 警告 子供を機械に近づけない

子供には十分注意し、近づけないでください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

格納時の注意事項

△ 注意 ストローチョッパー単体の転倒防止をする

スタンドを必ず下げる、転倒防止を必ずしてください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

本製品の使用目的について

- このストローチョッパーは、麦、緑肥、休耕地の草刈りに使用し、使用目的以外の作業には、決して使わないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象にはなりません。
- ストローチョッパーは決められた適応馬力で設計しています。適応トラクター馬力の範囲内で使用してください。範囲を越えての使用は故障の原因となり、保証の対象にはなりません。
- ストローチョッパーは「標準3点リンク」規格で設計しています。他の規格「特殊3点リンク」などでは装着ができません。
- ストローチョッパーの改造は決しておこなわないでください。保証の対象にはなりません。

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要なものです。

お読みになった後は大切に保管してください。

補修部品の供給年限について

- この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などご相談させていただく場合があります。
- 供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期、および価格についてご相談させていただきます。

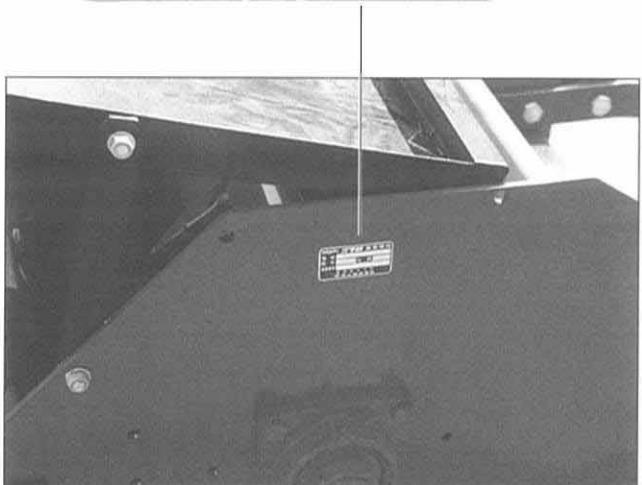
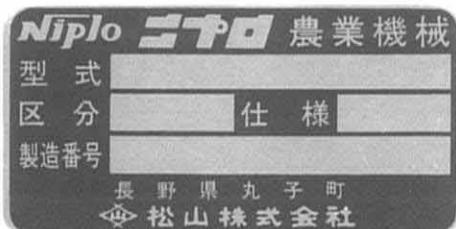
アフターサービスについて

機械の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。

点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた販売店・農協、または弊社までご連絡ください。なお、部品のご注文は販売店・農協に純正部品表（パーツリスト）が備えてありますのでご相談ください。

●ご連絡いただきたい内容

- 型式名と製造番号
- ご使用状況
 - ・果樹園ですか？ グランドですか？
 - ・ほ場の条件は？ 石が多いですか？ 強粘土ですか？
 - ・トラクターの速度は？
 - ・P T Oの回転数は？
- どのくらい使用されましたか？
 - ・約□□アール または □□時間
- 不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。

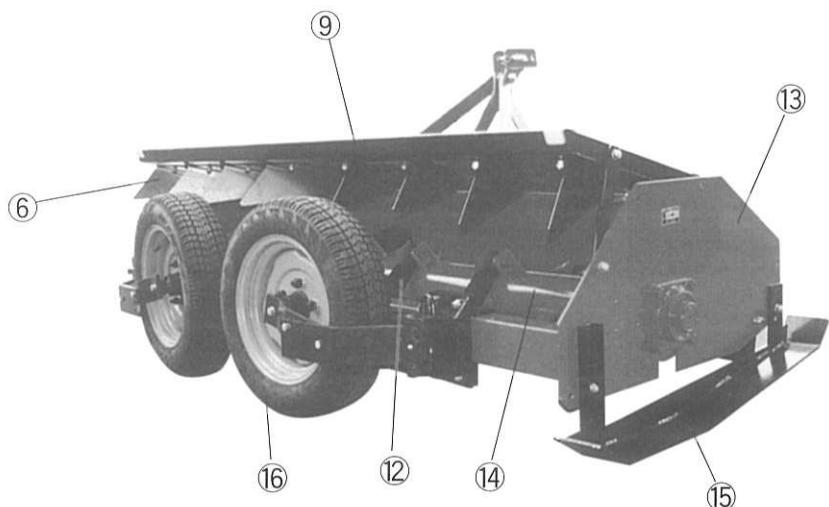
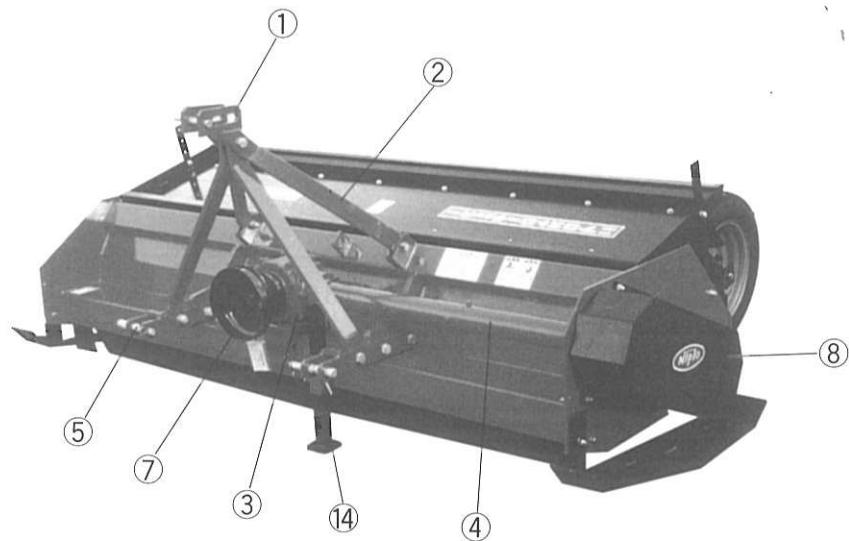


主 要 諸 元

型 式	MEC1600	MEC2000	MEC2300	MEC2900
全 長 (mm)		2085		
全 幅 (mm)	1900	2300	2500	3270
全 高 (mm)		1095		
質 量 (kg)	660	725	790	940
適 応 ト ラ ク タ (ps)	45~70(33.1~51.5)	50~70(36.8~51.5)	55~80(40.5~58.8)	70~80(51.5~58.8)
装 着 种 類	標準3点リンク直装JIS I、II兼用			
作 業 幅 (cm)	160	200	230	290
刈 り 高 さ (cm)	0~15			
作 業 速 度 (km / H)	3~8			
カッティング軸回転数(rpm)	POT540 rpm時1918	POT540 rpm時2020	POT540 rpm時1800	POT540 rpm時1633
回 転 外 径 (cm)	59			
刈 刃 本 数	ユニバーサルブレード32	ユニバーサルブレード40	ユニバーサルブレード48	ユニバーサルブレード56
刈り高さ調節方法	尾輪タイヤ上下			
使 用 ジ ョ イ ン ト	BD—OW			
驅 動 方 法	Vベルト駆動 SPB×4本			5本
作 業 能 率 (分/10a)	6~18	5~14	4~12	3~8
用 途	麦、緑肥、休耕地の草刈、野菜の残渣処理			

本諸元は、改良のため予告なく変更する場合があります。

各部のなまえ



①	マスト
②	ステー
③	ベベルケース
④	フレームパイプ
⑤	ロワーピン
⑥	デフレクター
⑦	入力軸カバー
⑧	ベルトカバー

⑨	フラップ
⑩	カッティング軸カバー
⑪	カッティング軸
⑫	ユニバーサルブレード(刃)
⑬	メインフレーム
⑭	スタンド
⑮	スキット
⑯	ゲージ輪

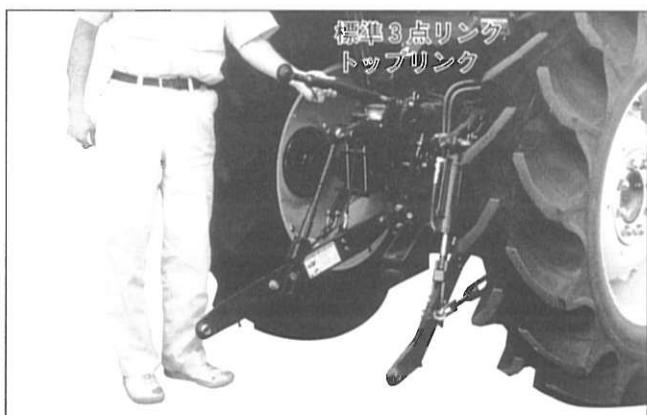
トラクター装着の規格

- ストローチョッパーの3点リンク装着システムは、「標準3点リンク規格」を採用しています。
- 「標準3点リンク規格」は3点リンクとジョイントを手で付けます。

3点リンクの調整

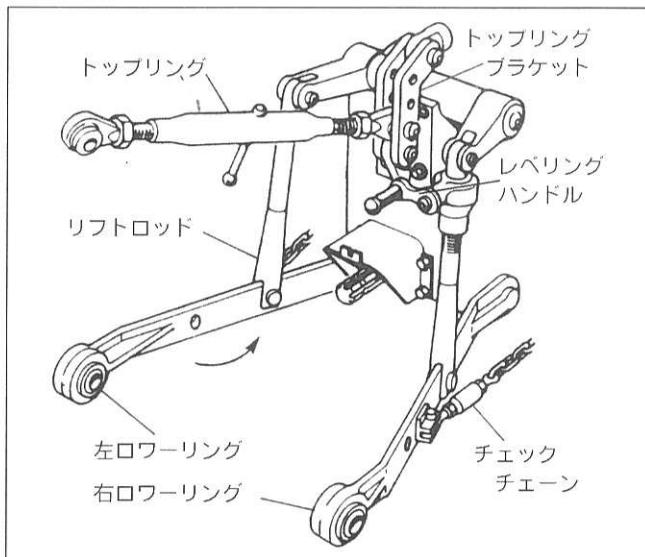
△ 注意

- トラクターの取扱説明書「3点リンクの規格」をよく読んでください。守らないと取付けができなかつたり、機械の損傷やケガの原因になります。
- カプラは「標準3点リンク規格」です。トラクターの3点リンクも標準3点リンクでないと装着ができません。



- 特殊3点リンク規格の場合は、特殊3点リンク用トップリングブラケットを外し、トップリングを標準3点リンク用の両側にターンバックルの付いた、長いものに替えてください。

- 作業機の下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置をロワーリングの前側の穴に移してください。



装着順序

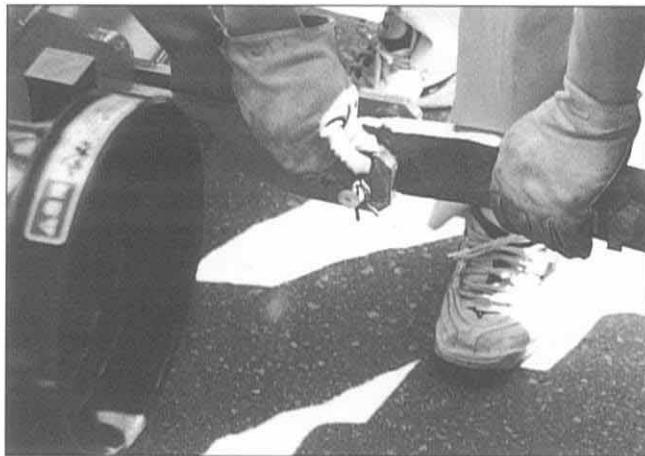
△警 告

- ストローチョッパーの装着は平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢でおこなってください。
- トラクターのまわりやフレールモアとの間に人が入らないようにしてください。
- ストローチョッパーの下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- ストローチョッパーの調整をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
- 重いストローチョッパーを装着したときは、トラクターメーカー純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。

守らないと死亡事故や傷害事故につながります。

- ① トラクターの左ロワーリングにストローチョッパーの左ロワーピンを取付けます。

- ② トラクターの右ロワーリングにストローチョッパーの右ロワーピンを取付けます。高さが合わないときは、レベリングハンドルを回しリフトロッドの長さを調節して取付けてください。



油圧で作業機の水平を制御しているトラクターは、スイッチやダイヤルでシリンダーの長さを調節してください。

- ③ フレールモアのマストにトップリンクの長さを調節して取付けます。

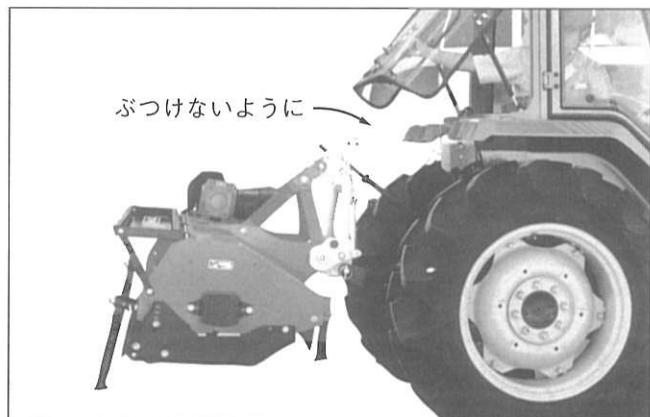


補足

- トップリンクの取付位置は、マストの長穴のまん中に取付けます。

持ち上げ時の注意

- ①はじめてトラクターへ装着するときは、「最上げ」時にトラクターとストローチョッパーがぶつからないように、油圧をゆっくり上げながら確認します。特にキャビン付きトラクターの場合は、背面のガラスを突き上げないように注意してください。



- ②トラクターにより、スイッチで「最上げ」まで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、10cm以上間隔を開け、上げ規制をしてください。
- ③トップリンクやロワーリンクの取付穴位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合には、調整をやり直してください。

△ 注意

- トラクターの取扱説明書「3点リンク、および油圧関係」をよく読んでください。守らないと機械の損傷やケガの原因となります。

ジョイントの取付け

△ 注意

- PTOクラッチを切り、トラクターのエンジンは必ず停止させ、ジョイントの取付けをしてください。守らないと死亡事故や傷害事故につながります。
- このストローチョッパーは、専用ワンウェイジョイントを標準装備しています。他のジョイントは決して使わないでください。守らないとトラクターが急停止できなくなります。

補足

- ストローチョッパーは作業部(カッティング軸)が高速で回転します。トラクターのクラッチを切ってもすぐに止まりません。しばらく慣性でカッティング軸が回り続けます。その回転でPTO軸を回し、連動してトラクターの車輪を前進させてしまいます。

ジョイントの長さは、装着するトラクターの型式により異なります。ご注文時にトラクターの型式を明示いただければ、それに合ったものが付いていきます。型式が不明の場合は標準の長さの物を付けています。

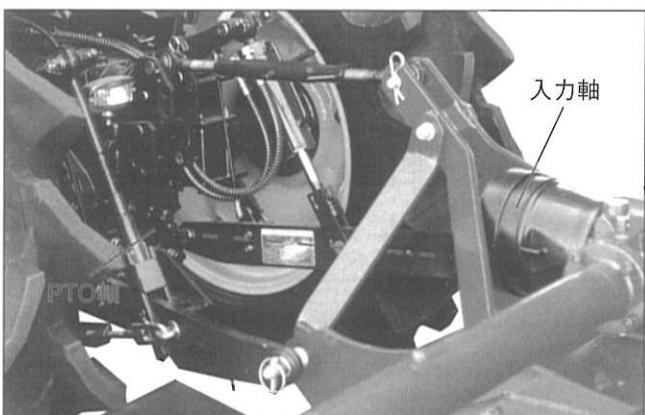
補足

- 長すぎるジョイントを装着すると、トラクターのPTO軸か作業機の入力軸を突き、破損させます。短いとジョイントのかみ合いが少なく、ジョイントが破損します。

①長さの確認

次の方法で長さの確認をしてください。

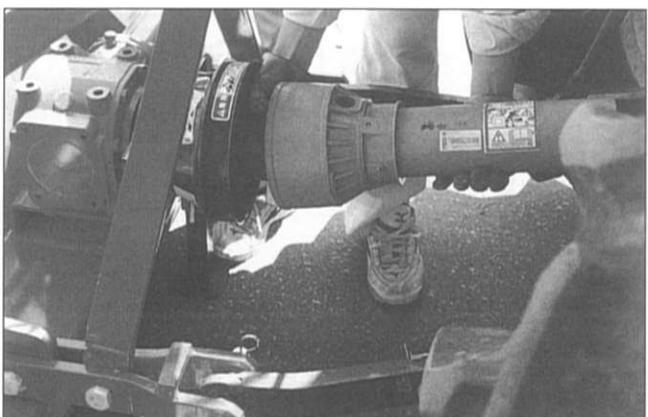
- (1)ストローチョッパーをゆっくり上下し、トラクターのPTO軸とストローチョッパーの入力軸が同じ高さになったところで油圧をロックし、エンジンを止めます。



- (2) ワンウェイクラッチ側をトラクター PTO 軸に取付けます。
逆に取付けると動力が伝達しません。



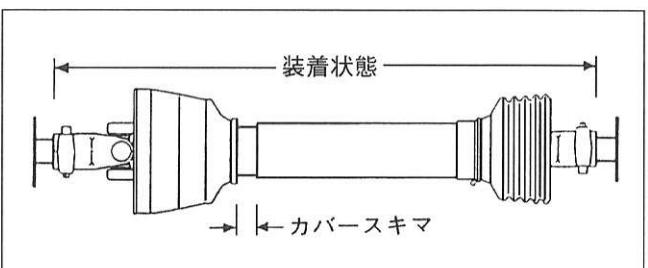
- (3) ジョイントをいっぱいに縮め、ジョイントの先端とストローチョッパーの入力軸との間に 1 cm 以上間隔があればそのまま使用できます。
間隔がない場合は、長い分を切断します。



- (4) ストローチョッパーを上下して、ジョイントの「カバースキマ」が表の範囲内にあるか調べます。

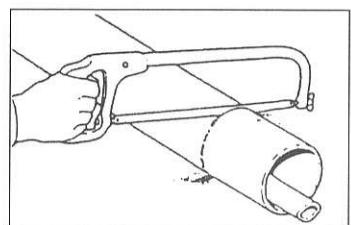
種類	型式	カバースキマ(mm)
ワンウェイクラッチ付き ジョイント	B D - 3 - OW	20 ~ 110
	B D - 4 - OW	20 ~ 140

※スキマが大きすぎるとジョイントの強度が不足します。長いものと交換してください。

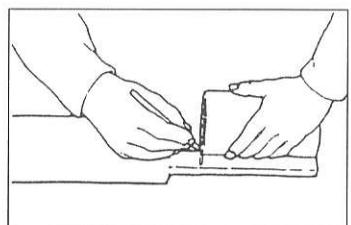


② 長さの調整

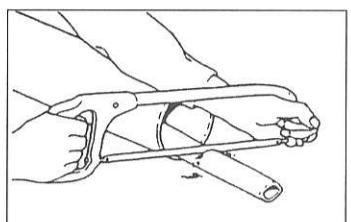
- (1) 長い分だけプラスチックカバーをオス・メス両方切り取ります。



- (2) 切り取ったプラスチックカバーと同じ長さを、シャフトの先端から計ります。



- (3) シャフトを高速カッターか、金ノコでオス・メス両方切断します。

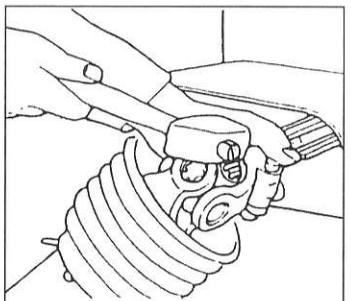


- (4) 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、グリスを塗りオス・メスを組合せます。

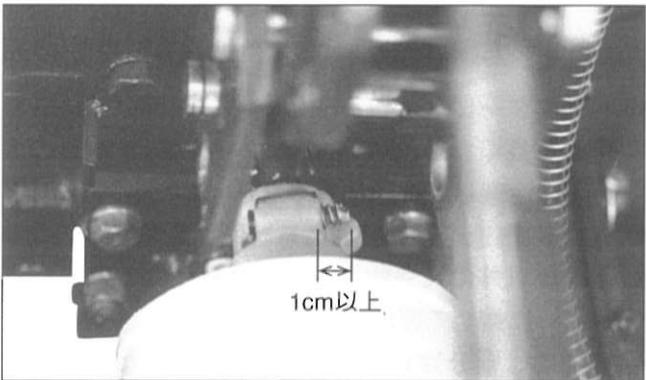
③ 取付方法

- (1) ジョイントのロックピンを押しながら、PTO 軸、および入力軸へ挿入し、ロックピンを軸の溝で止めます。

ハンマーなどでジョイントをたたき、強引に入れないのでください。

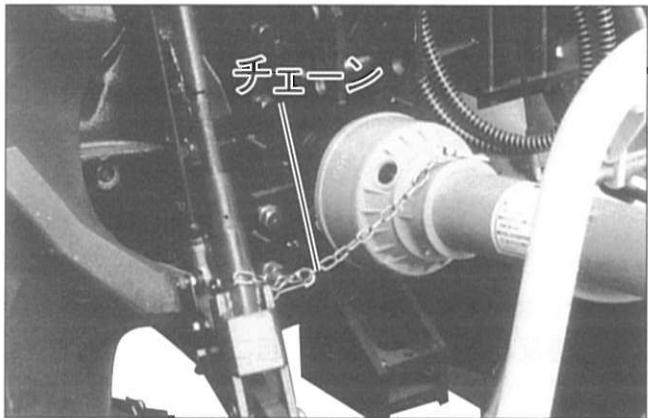


ロックピンが1cm以上出ていると、確実にロックされています。(フレールモア側)



ジョイントの取付方向は、ワンウェイクラッチ側をトラクター側のP T O軸に取付けます。

(2) ジョイントカバーのチェーンを、トラクターとストローチョッパーの動かない場所につなぎます。ストローチョッパーを上下しても引っ張られないようたるみを持たせます。



トラクターとの調整

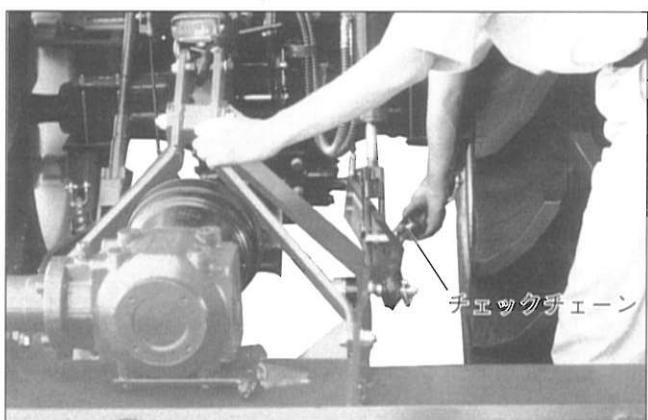
△ 警 告

- ストローチョッパーの調整をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。
- トラクターのまわりやストローチョッパーとの間に人が入らないようにしてください。
- ストローチョッパーの下へもぐったり、足を入れたりしないでください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

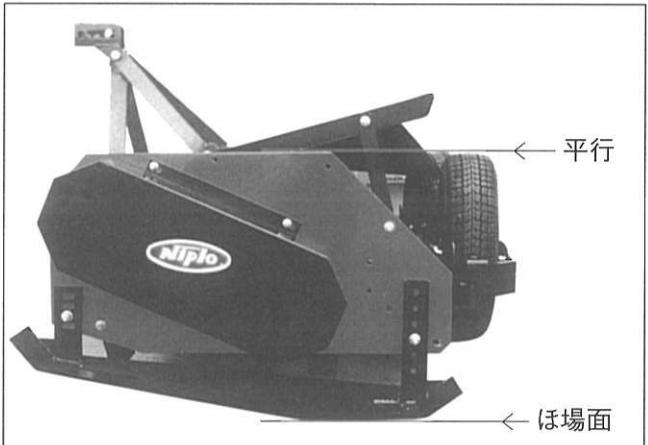
① 振れ止め調節

トラクターの中心（P T O軸）とストローチョッパーの中心（入力軸）を一直線に合わせ、チェックチェーンを張ります。石が多いときは、ややゆるく張ってください。



② 前後角度調節

作業時にフレームの上側がほ場と平行になるように、トップリンクの長さを調節します。



補足

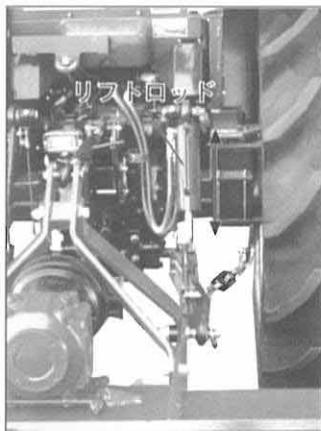
トラクターの車輪より下へストローチョッパーが下がると、ジョイントがカプラのバーへ当たるトラクターがあります。

- トップリンクを伸ばし、ベルトカバーの角度をやや後ろへ倒してください。
- 油圧レバーを調節して、ストローチョッパーの下がり止めをしてください。

③ 水平の調整

ストローチョッパーの左右が水平になるように、トラクターのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調節します。

油圧で作業機の水平を制御しているトラクターは、スイッチやダイヤルでシリンダーの長さを調節してください。

**④ ストローチョッパーの「最上げ」位置の調節**

P T Oを回転させながら、ゆっくりフレールモアを上げ、振動や異音の出ない位置で油圧レバーの「上げ規制ストッパー」を止めます。

ほ場への出入りのしかた**△警 告**

- トラクターにストローチョッパーが付いていると後ろが長くなり、横幅も広くなります。まわりの人や物に注意して旋回してください。
- 急発進、高速走行、急制動、急旋回は危険です。
- 運転者以外の人や物をトラクターやストローチョッパーに乗せて運ばないでください。
- 子供には十分注意し、機械へは近づけないでください。
- アゼ越や段差を乗り越えるときはアユミ板を使用し、地面に接しない程度にストローチョッパーを下げ、重心を低くしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めのある物を選んでください。
- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくとも危険です。トラクターメーカー純正のバランスウェイトを付けてください。

守らないと死亡事故や傷害事故、機械の損傷の原因になります。

- トラクターにストローチョッパーを装着して公道を走行しないでください。守らないと「道路運送車両法」違反となり、事故を引き起こす原因になります。

① 移動のときは、ストローチョッパーをいっぱいに上げ、油圧ストップバルブを完全に「閉め」、下がるのを防ぎます。ストローチョッパーが左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めてください。

② ほ場への出入りは直角に、ゆっくり前進でおこなってください。

③ ストローチョッパーの地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。

補足

- 作業をするときは、トップリンクの長さをもとに戻してください。

△注 意

- トップリンクの調節をするときは、ストローチョッパーを下げ、エンジンを停止してからおこなってください。守らないと、傷害事故につながります。

作業のときの注意

ストローチョッパーは作業部（刈り刃が付いている軸）が高速で回転しています。慎重に取扱わないと大きな事故につながります。また、幹や枝が出ている果樹園での作業が多くなります。

次の注意を必ず守り、安全に作業をしてください。

- 旋回や後退でストローチョッパーを持ち上げるときは、必ず PTO 回転を止めてください。
- トラクターを後退させて作業をしないでください。機械が破損します。
- 使用中異常が発生したらすぐにエンジンを止め、点検をしてください。そのまま使用すると他の部分へ損傷がひろがるおそれがあります。

⚠ 警 告

- 回転部分へ絶対に、手や足を入れないでください。
- 回転部分・作業部に草や雑物がからみ付いたときは、PTO回転を止め、エンジンを停止して、作業部が完全に止まってから草や雑物を外してください。
- 作業中は石や枝がまわりに飛散します。トラクターやストローチョッパーの近くに人を絶対に近づけないでください。
- 傾斜地での急旋回はトラクターが転倒するおそれがあります。トラクターの速度を低速にして大きく旋回してください。
- 果樹園での作業は、幹や枝に頭や首をぶつけることがないように、前方に注意して運転してください。
- 子供には十分注意し、機械へは近づけないでください。
- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなりとても危険です。トラクターメーカー純正のバランスウェイトを付けてください。守らないと死亡事故や傷害事故の原因となります。

⚠ 注 意

- アゼや樹木の近くでの作業は、ストローチョッパーをぶつけないようにトラクターを低速にし、余裕をもって運転してください。守らないと機械の損傷や傷害事故につながります。
- トラクターにストローチョッパーを装着して公道を走行しないでください。守らないと「道路運送車両法違反」になり、事故を引き起こす原因になります。

作業の方法

△警 告

- 調節をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。守らないと傷害事故につながります。

△注 意

- 作業が終わったら、草やゴミを路上に落とさないでください。
守らないと道路交通法違反になります。
- 作業のときはスタンドを上げてください。



① 作業速度

- (1) トラクターの作業速度は2.0~4.0km/h が標準です。
- (2) 草の種類や草丈によりエンジンの馬力が不足するときは、トラクターの速度を遅くしてください。

② P T O回転速度

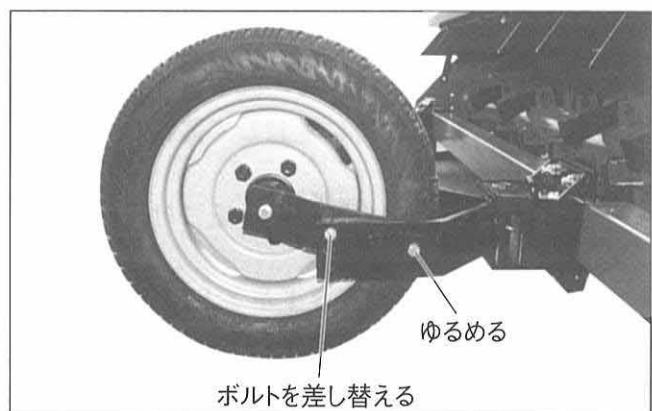
- (1) P T O回転数は540回転で使用してください。

補足

- 540回転以上で使用すると、機械の損傷につながります。
- ジョイントの装着は、ジョイントカバーのトラクターマークがある方をP T O軸にセットしてください。

③ 刈り高さの調節

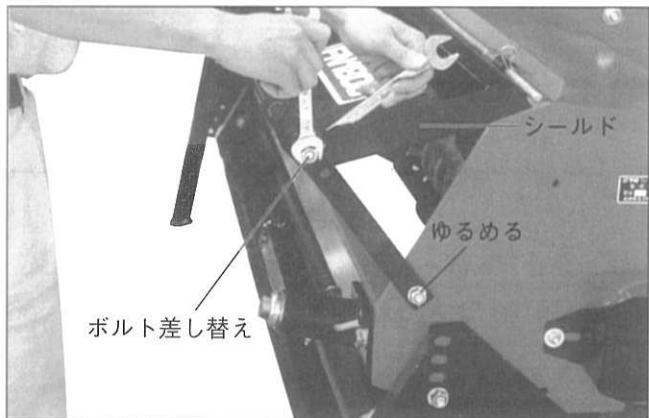
- (1) 後方タイヤのボルトの差し換えて高—標準—低の3段階の調節ができます。



- (2) スキットの前側のボルトをゆるめ、後ろ側のボルトを差し替えて高さを調節します。
- (3) 高さの調節がすんだら、トップリンクを調節してベルトカバーを垂直にしてください。

④ 後方への草のはきだし調節

- (1) シールドの角度を調節し、草の飛び出しの方向を調節します。
- (2) ステーの下のボルトをゆるめ、上のボルトを差し替えて角度を調節します。



トラクターからの取外し

⚠ 警 告

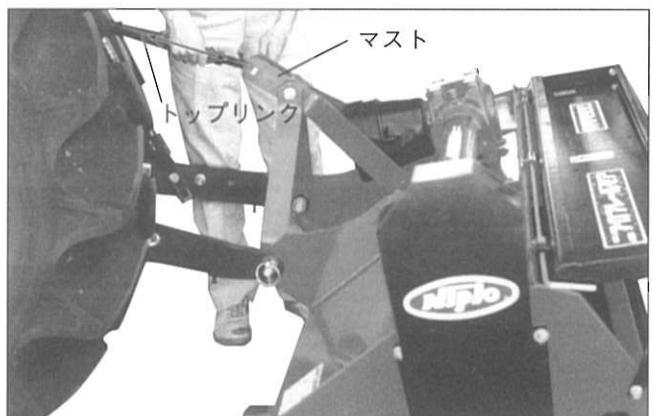
- フレールモアの取外しは平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢でおこなってください。
- 取外すときは、スタンドを下げてください。
- トラクターのまわりやフレールモアとの間に人が入らないようにしてください。
- フレールモアの下へもぐったり、足を入れたりしないでください。

守らないと死亡事故や傷害事故につながります。

⚠ 注 意

- PTO変速レバーを「中立」の位置にして、取外してください。守らないと傷害事故につながります。

- ① ストローチョッパーのスタンドを下げて固定します。
- ② ストローチョッパーをゆっくり下ります。
- ③ ジョイントをトラクターのPTO軸から外し、次にストローチョッパーから外します。
- ④ ストローチョッパーのマストからトップリンクを外します。外れないときは、トップリンクの長さを調節して取外してください。



- ⑤ トラクターの右ロワーリンクからストローチョッパーのロワーピンを外します。高さが合わないときはレベリングハンドルを回し、リフトロッドの長さを調節してください。
- ⑥ トラクターの左ロワーリンクからストローチョッパーのロワーピンを外します。
- ⑦ ゆっくりトラクターを前進させます。

点検・整備・保守管理

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

△警 告

- 点検・整備をするときは、交通の邪魔にならず安全なところを選んでください。機械が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所を選び、トラクターの前輪には車止めをしてください。
- 点検・整備をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にしエンジンを停止してからおこなってください。
- ストローチョッパーの落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に「閉め」てロックし、さらにストローチョッパーの下へ台を入れてください。
- 爪や回転部分に草や雑物が巻き付いたときは、必ずエンジンを停止させ、作業部が完全に止まってから巻き付きを外してください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

△危 険

- 点検・整備のときに外したベルトカバーは、必ずもとどおりに取付けてください。守らないと巻き込まれて傷害事故の原因になります。

①ボルト・ナットのゆるみ点検

ストローチョッパーは高速で回転する機械です。使用するたびに各部のボルト・ナットを増締めしてください。

新品の場合は使用2時間後に必ず増締めをしてください。

②ジョイントの給油

Ⓐグリスニップル

使用時ごとにグリスアップする。

Ⓑジョイントスプライン部

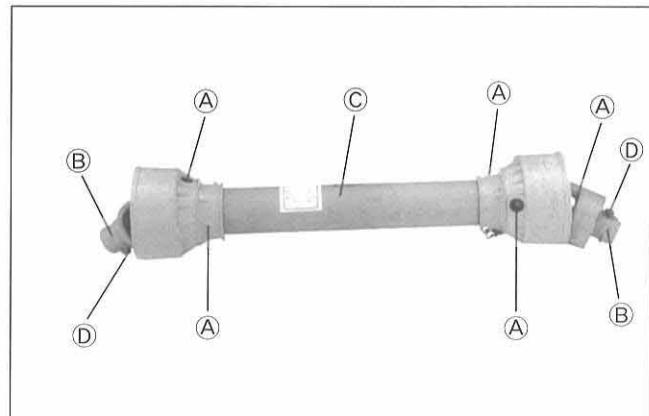
シーズン後にグリスを塗る。

Ⓒ三角チューブ

シーズン後にグリスを塗る。

Ⓓロックピン

シーズン後にグリスを塗る。



③オイルの量と交換

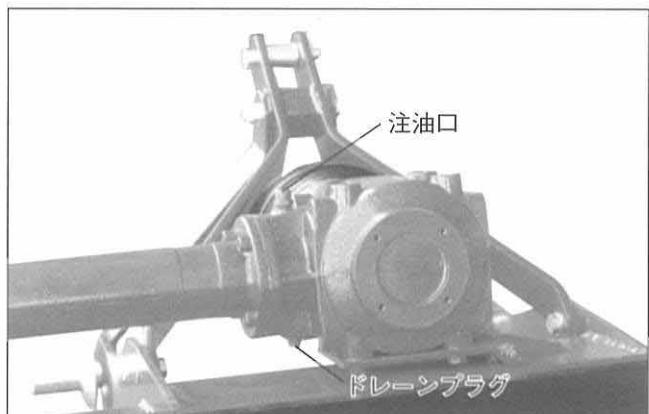
(1) オイルの量

オイルの種類	油量(ℓ)	交換時間	
		1回目	2回以降
ペベルケース	ギアオイル#90	1	20時間 シーズン後
フレームパイプ	タ	0.6	タ タ
左 軸	グリス	適量	適時
右 軸	タ	タ	タ

(2) 交換とグリスアップ

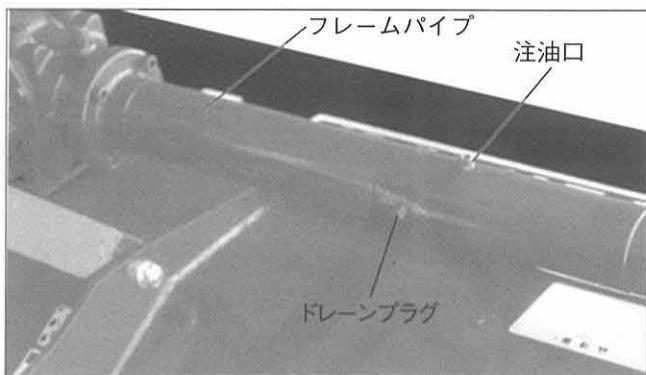
①ペベルケース

ドレンープラグを外して、オイルを排出します。注油口から、オイルを1ℓ給油してください。

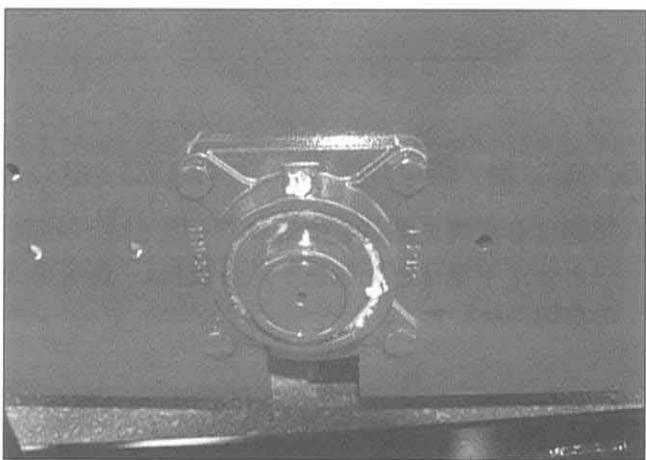


②フレームパイプ

ドレンープラグを外して、オイルを排出します。
注油口から、オイルを0.6ℓ給油してください。



③右軸のグリスアップ



地球にやさしく

●使用済みのオイルをむやみに捨てると環境汚染になります。

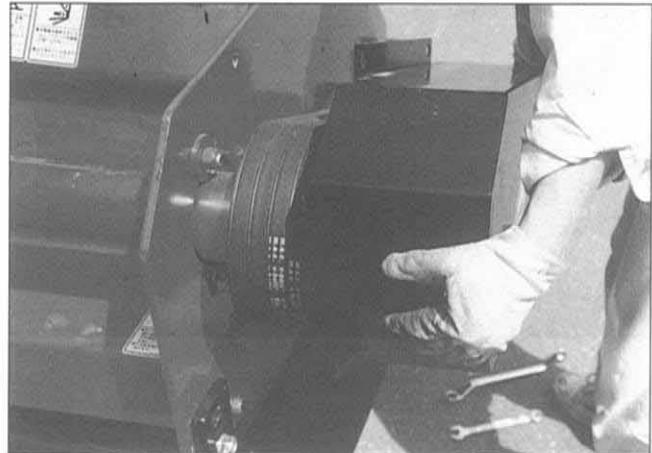
- (1) オイルを排出するときは、必ず容器に受けてください。地面へのたれ流しや川への廃棄は絶対にしないでください。
- (2) 廃油・各種ゴム部品などを捨てるときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

④ベルトの調整

Vベルトは使用後20時間で初期伸びします。ベルトの張り調整をしてください。

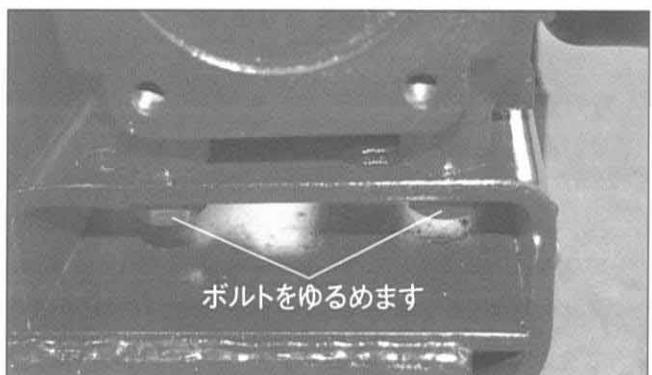
(1) ベルトカバーの外し方

- ①ベルトカバーを止めているボルトを外します。



(2) ベルトの調節

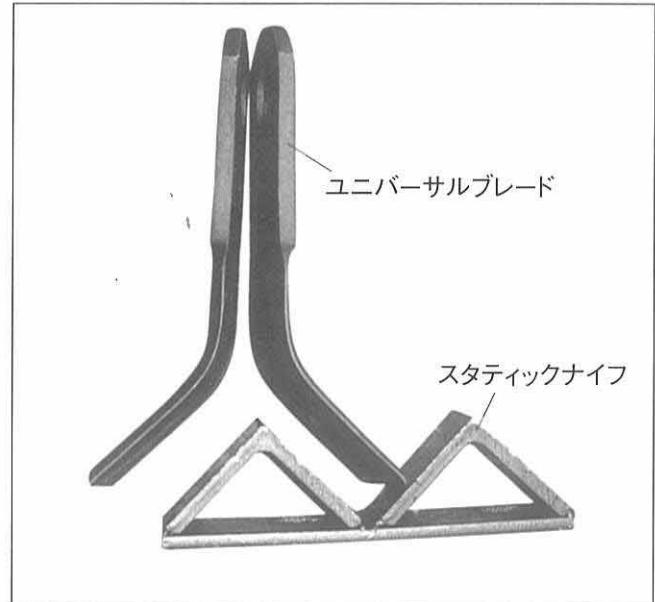
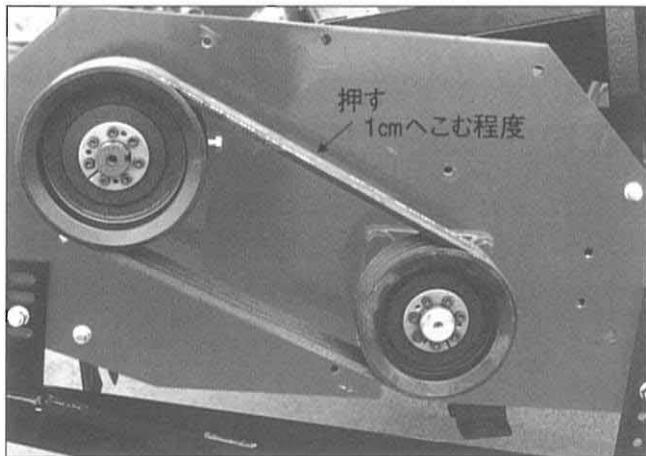
- ①ミッションのボルト4本をゆるめます。



- ②ボルトを回して調節します。



- ③ベルトの張りは、指で押して1cm位へこむ程度に調節します。



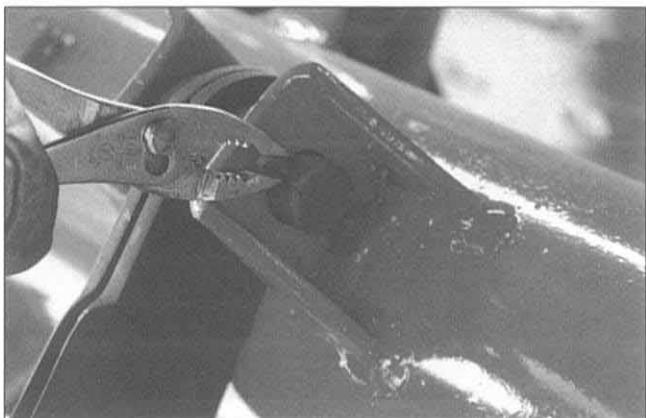
△ 危 険

- 点検・整備のときに外したベルトカバーは、必ずもとどおりに取付けてください。守らないと巻き込まれて傷害事故の原因になります。

⑤ 刃の点検と交換

刃が摩耗すると切断能力が低下し、破損したまま使用すると回転バランスがくずれ機械が振動します。

- (1) ストローチョッパーは高速で回転しています。刃や固定ボルト・ナットの摩耗に注意し、使用するごとに点検してください。
- (2) 刃の交換をするときは、ワリピンをプライヤー等でははずして交換してください。



△ 注 意

- 部品は必ず純正部品を使用してください。守らないと強度不足などで機械や爪が破損し、傷害事故の原因になります。

格 納

△注 意

- 格納は、雨や風があたらず、平らで固い場所を選んでください。
- ストローチョッパーの格納はスタンドを必ず付け、転倒を防いでください。
- 子供が手をふれても転倒しないようにしっかり固定してください。機械の近くで子供を遊ばせないでください。
守らないとストローチョッパーが転倒し、傷害事故や機械の損傷につながります。
- 作業終了後は、よく水洗いして水分をふき取ってください。
- ジョイントは作業機から外し、別に保管してください。
- 塗装のできない入力軸・ジョイントのスプライン部には、必ずサビ止めのためにグリスを塗ってください。

松山株式会社

本 社:〒386-0497
物流センター:〒386-0497
北海道営業所:〒068-0111
旭川出張所:〒079-8431
帯広出張所:〒082-0004
東北営業所:〒989-6228
関東営業所:〒329-4411
長野営業所:〒386-0497
岡山営業所:〒708-1104
九州営業所:〒861-4101
南九州出張所:〒885-0074

長野県小県郡丸子町塩川5155 ☎(0268)42-7500 FAX0268-42-7556
長野県小県郡丸子町塩川2949 ☎(0268)36-4111 FAX0268-36-3335
北海道空知郡栗沢町由良194-5 ☎(0126)45-4000 FAX0126-45-4516
北海道旭川市永山村8丁目32 ☎(0166)46-2505 FAX0166-46-2501
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番19(第3工業団地) ☎(0155)62-5370 FAX0155-62-5373
宮城県古川市清水3丁目石田24番11 ☎(0229)26-5651 FAX0229-26-5655
栃木県下都賀郡大平町横堀みずほ5-3 ☎(0282)45-1226 FAX0282-44-0050
長野県小県郡丸子町塩川2949 ☎(0268)35-0323 FAX0268-36-3335
岡山県津山市綾部1764-2 ☎(0868)29-1180 FAX0868-29-1325
熊本市近見7丁目13番60号 ☎(096)356-4134 FAX096-322-8310
宮崎県都城市甲斐元町3389-1 ☎(0986)24-6412 FAX0986-25-7044